

「コストマネジメント・コンサルティング」のご紹介

1. なぜ今、コストマネジメントなのか

①コスト削減は重要な経営課題の一つです

- 景気動向が不透明な状況において、経営環境は極めて厳しく、トップラインを伸ばすと同時にボトムラインの圧縮、つまりコスト削減も並行して実施し、利益を確保することが重要な経営課題になっています

②自社による取り組みだけでは価格・仕様の適正化が不十分なケースが多いです

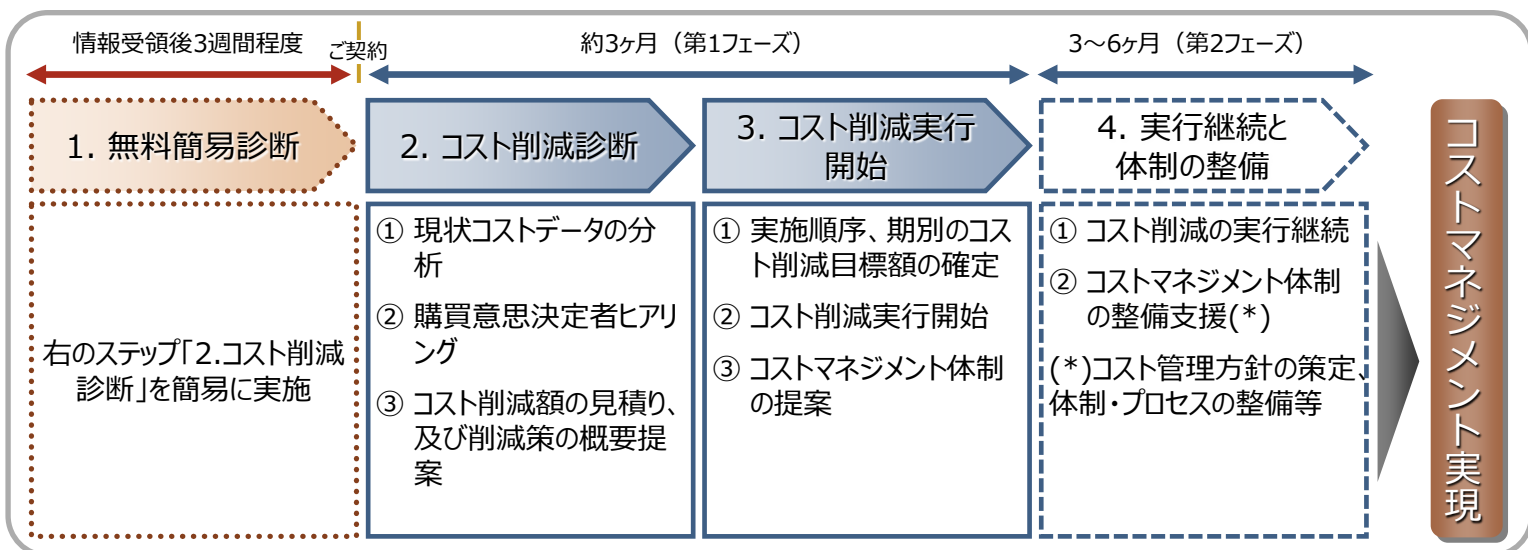
- コスト削減を自社独力で取り組むこともできますが、自社で行う場合、価格や仕様のベンチマークデータがなく、それらが適正であるかの判断が困難です
- その結果、一律〇%の削減交渉となってしまうがちで適正化が不十分なケースがあります

③中長期的にコスト削減効果を楽しむためにはコストマネジメント体制の構築が必要です

- また、上記のような短期的な視点からの安易なコスト削減は、サービスの質が低下したり、リバウンドしてしまいがちです
- 中長期的にコスト削減効果を楽しむためには、コストマネジメント体制の構築が必要です

2. 当社コンサルティングの特長と概要

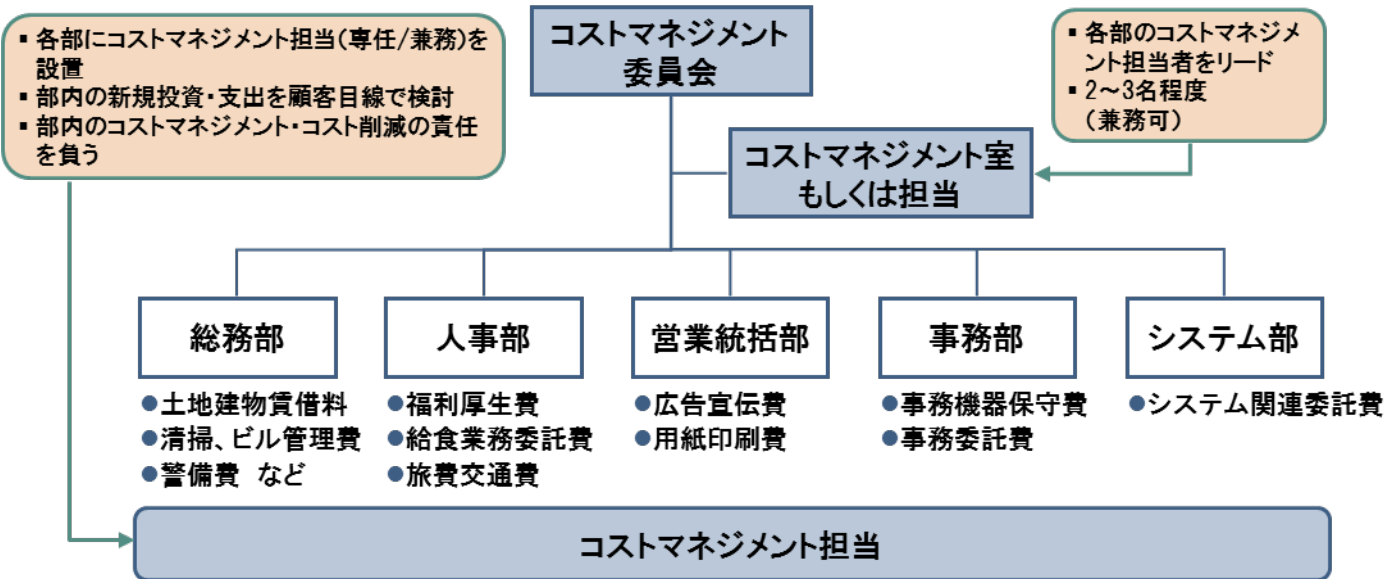
- | | | |
|---|-----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | ベンチマークデータや原価計算ノウハウの保有 | ■ 他社事例を踏まえた、ベンチマークデータや原価計算ノウハウを保有しており、データに基づく、コスト削減が可能 |
| 2 | 支出の必要性・仕様まで踏み込んだご支援 | ■ 支出の必要性、特に委託業務に関しては仕様や委託業者の生産性まで踏み込んだ、コスト削減を支援 |
| 3 | 業者交渉への同席 | ■ 業者への情報提供依頼や交渉の場に同席し、交渉を支援
■ 施策の実行まで責任を持って対応
■ ご要望に応じて、地元企業に配慮して交渉を支援 |
| 4 | 継続的な取り組みをご支援 | ■ 当社コンサル後も貴社でコスト削減を継続的に行う、仕組み（ツール）・体制づくりに注力。また、終了後も定期的に支援（例：コスト削減担当の育成、体制・規程・ルール作り） |



3. 削減対象となる主な費目と効果事例

費目カテゴリー	主な費目	削減ポテンシャル（イメージ）	
		コスト削減を未実施の場合	過去にコスト削減を実施済みの場合
総務	<ul style="list-style-type: none"> ・土地建物賃借料 ・清掃、ビル管理費 ・警備費 ・営繕費 ・備品費 等 	15～10%	7.5～5%
人事	<ul style="list-style-type: none"> ・福利厚生費 ・給食業務委託費 ・旅費交通費 等 	1-2%	0.5%
営業	<ul style="list-style-type: none"> ・広告宣伝費 ・用紙印刷費 等 	15～30%	7.5%
事務	<ul style="list-style-type: none"> ・事務機器保守費 ・事務委託費 等 	10%	5%
システム	<ul style="list-style-type: none"> ・システム関連委託費 ・ライセンス費 ・ネットワーク費 等 	5%	2.5%
全体		6%	3%

【コストマネジメント体制の例】



まずは無料簡易診断！を

- ・簡易診断に必要な情報を当社にご提供ください。約3週間程度で削減余地を診断いたします。(別途NDAを締結)
- ・また、広告宣伝費、電話代(携帯/固定)、電気代、郵便費、印刷費、土地建物賃借料等については、単独費目での簡易診断、コスト削減のご提案も可能です。
- ・簡易診断は無料で実施致しますので、お気軽にお問い合わせください。

【お問合せ先】

株式会社 三菱総合研究所

営業本部 TEL : 03-6858-3493 Email : service@mri.co.jp

(担当 デジタル・トランスフォーメーション部門 企業DX本部 浦嶋)

※本コンサルティングサービスは、費目によっては弊社パートナー企業と協同で提供いたします。